

夏涼しくて冬暖かい家は誰でもが望む住まいの理想です。人が涼しさや暖かさを求めるのに先ず温度を考えますが、実は湿度を味方にもすることも欠かせません。温度よりもわかり難い湿度がどのように住まいの快適さに関わってくるのかを知って頂ければと思います。

湿度という曲者

湿度とは違い体感として湿度を意識することは少ないのですが、湿度はとても大事な指標なのです。気温以上に人や住まいに影響を及ぼしています。湿度は人が感じる暑さや寒さに大きく影響し、乾燥や湿気によって健康を害する原因が生まれることもあります。更には人だけでなく住宅の性能や耐久性にまで湿度は関わっています。シロアリや腐朽菌などの繁殖は湿気のある所に限られています。住宅の主な材料である木材や建材などでは乾燥されていることが基本です。ところが人が暮らす住まいの空気環境では、乾燥しすぎることは決して良いことではありません。気温とは違い湿度というのは曲者と考えるべきではありません。住宅を長持ちさせ快適な環境を得るためにちょっと難しいかもしれませんが湿度の話は大切です。

あってはならない内部結露

温度が高い部屋の空気の中には沢山の水蒸気量がありますが、冷えた物の近くでは温度が低くなるので絶対水蒸気量が下がり水蒸気が溢れて結露しているのです。湿度が高いほど結露が起きやすくなります。住宅では結露の問題は高気密・高断熱が進んできた現在、冬型結露及び夏型結露のどちらも注意しなければなりません。冬型結露の特徴は調理やお湯を沸かすことや人が呼吸することで沢山の水蒸気が放出されます、そこに部分的に温度が低い場所があると結露します。代表的なところが窓廻りです。でも、これは見えるので拭き取ることが出来ます。住宅で怖いのは壁体内に発生する可能性のある夏型結露になります。冷やされた室内側に設けた気密シートの壁体内側に結露が発生する

快適住まいの家学

恐れがあります。壁の内部結露は見えないので発見が難しくとても厄介です。発生した結露は断熱材や柱に浸み込み断熱性能を低下させ、シロアリや腐朽菌が繁殖する原因になります。住宅の性能と耐久性を著しく低下させ、更に家族の健康も害しかねません。内部結露はあってはならないものと思います。

室内の結露対策

サッシの枠やガラス面に発生する結露は断熱性を高めたペアガラスや樹脂サッシ・木製サッシを使うことで温度差が少なくなり結露しにくくなります。それでもまだ室内に溢れてしまった水蒸気は少しでも温度の低いところで結露しようとしてきます。押入の奥や家具の裏側などにカビが生えているのを経験しているのではと思います。断熱性・気密性を高めるほどしっかりと換気を行い空気が流れる家にしなければなりません。更に温度差が少なく隅々まで届く輻射式の暖房器具を使うのも結露対策のひとつになります。

呼吸する家

出来る限り機械設備に頼らないで、快適な湿度をコントロールするにはどうしたら良いでしょうか！その答えは、なによりも呼吸する家をつくることです。昔の日本家屋はよく風の抜ける家でした。その上無塗装の木材に障子や襖、土塗りの壁など調湿性能のある材料でつくられていました。これらは皆、呼吸する材料といわれています。木材や紙や塗り壁の表面には細かい気孔があり水蒸気を吸ったり吐いたりしています。夏の湿気の多い時は吸い、冬の乾燥の時は吐いてくれます。高断熱で高気密で性能の優れた住宅になればなるほど湿度に敏感になります。そのような住宅こそ、本来呼吸する材料を使うべきだと思います。湿度という曲者を上手に操ることが出来ると健康で長持ちする家が出来るとおもいます。

気にならな



1階 25.2坪 2階 8.8坪 TOTAL 34.0坪

センタークローゼット

家の中心には陽の光が届かない空間ができてやすいです。逆にそれは収納にとっても向いている空間です。玄関から家の中心部に収納をつくりその周囲に居室を考えると新しい間取りが生まれます。



2つの片流れ屋根の下に、陸屋根のバルコニーで外観デザインを構成します。

2014年9月に九州電力の管内で太陽光発電の急速な普及による送電網の設備容量の限界が問題になって以来、2015年度の固定買取制度がどうなるのかという予測は色々取沙汰されてきました。その方向性は電力会社によって買取価格が違う点、年度変わりで価格が変わる、こと、状況によっては電圧抑制が行われることです。電力会社による買取価格ですが、送電網の設備容量に余裕のある東京電力などの管内で10Kw未満の買取価格は4円下がって2015年度は**33円**に、電圧抑制の可能性のある管内では**35円**の買取単価になります。10Kw以上は7月以降**27円**に引き下げになります。

電圧抑制とは簡単に言えば売電ができない状態になることです。電力を管理して会社が需給に応じて電圧をコントロールして売電することができ抑制が起きると太陽光発電に付属しているパワコンが発電を中止します。売電収入が無くなるという事です。

ちょっと得する話

そこで注目を浴びているのが**蓄電池**です。これまではどちらかといえば災害時の停電に備えるというイメージでしたが、電圧抑制が起き売電出来ない場合に電気を蓄え、電力会社から年々値上げされていく電気を買わずに光熱費を節約していきます。これからは極力電気を買わないようにする自給自足型太陽光発電の活用が主流になりそうです。その流れが加速化しそうなのが復活した**補助金**です。2015年度は3割アップの130億円の予算が計上されました。1邸当たり**50万円**前後を受けられそうですので太陽光発電とセットでお奨めです。

庭のある暮らしはとて素敵なおもです。家族との暮らしがあり、ペットや植物などの生物との暮らしもあり季節の移り変わりを楽しめます。この季節を取り込み、毎日家の中から景色を眺める充実した暮らしが出来ます。後は具体的な機能の場所には、ガレージ・門柱・アプローチ・ポスト・表札・駐輪場・物置・フェンス・立水栓・物干しスペース・ウッドデッキ・花壇・家庭菜園・照明・植栽・シンボリツリー等々そして日本庭園やイングリッシュ型・モダン・シンプル・雑木風・ナチュラル志向・かわい感じなどのイメージも...

また、将来像と予算内で出来ることは別。子供が小さなきしか出来ない楽しみ方などは早く、時間を掛けてもいいのは状況をみて決めていく方がいいですね。そして何より暮らしをしていくとき家族や友達と過ごす時間は大切です。そのバ

家づくり庭づくり

一ベキューはもちろん、ちょっと休憩してお茶を飲むゆとりや、ペットや子供たちと遊ぶことです。縁側のようなデッキには夏でも風通しの良いシェードのある暮らし。緑に癒されたい、家庭菜園もしたい、そして一年中花を植え宿根草と一年草が美しく共演できるようなガーデンスペース。夜は照明が美しくメルヘンのような庭。小さな池や水場でビオトープして自然の生き物呼びたい等々、まだまだたくさんプログラムがあります。細やかに具体的にイメージを作り、条件が決まるからこそ将来に向けての基本の排水、土、電気、水基礎柱などが無駄なく出来ます。そしてこの素晴らしい暮らしに気づいて生活の質が上がるといういいですね。